

## 老いと演劇のワークショップ

# 認知症の人と「いまここ」を楽しむ



講師は「老いと演劇」OiBokkeShi主宰の菅原直樹さん



演技を通じて疑似体験



体を使った遊びで緊張をほぐす

# 市政トピックス TOPICS

3月27日と28日、勝山文化往来館ひしおと久世エスパセンターで老いと演劇のワークショップが開催されました。普段介護に関わる人を中心に集まった参加者は、遊びとりハビリを組み合わせた「遊びリテーション」などで緊張をほぐした後、介護施設の職員と認知症の人を交互に演じ、認知症の人が言動を否定されたときの気持ちを疑似体験。「ボケ」を受け入れ、演じることでお互いの感情を和らげ、介護者と過ごす今しかない時間を楽しむことなどを学びました。

3月28日、市役所で真庭市産業サポートセンターから平成30年度に支援を受けた事業の成果発表会が開かれました。この日は、支援を受けた15の事業者の内7つの事業者が、各自取り組んだ事業の過程や結果などについて、地域の雇用創出や異業種間連携といった地域産業の発展につなげたいという思いとともに発表しました。また開発や販路開拓の協力など、この発表会を機に参加事業者同士が更に連携を深めていました。

## 真庭市産業サポート支援事業成果発表会 地域の発展につなげる



事業の過程や成果を発表



さまざまな分野から参加者が出席

3月26日、真庭市役所本庁舎で第5回真庭バイオマス産業都市推進協議会が開かれました。この会は産業、市民、議会、行政の関係者で構成されており、真庭バイオマス産業都市構想の実現と真庭市バイオマス活用推進計画に定められた事業の推進を図ることを目的に開かれています。バイオマス発電などの事業推進状況の報告が行われた後、各委員からの質問や今後の課題など、活発な意見交換が行われました。

## 第5回真庭バイオマス産業都市推進協議会 バイオマス産業都市の実現に向けて



市長室から  
こんにちは!

## 子どもが幸せである 令和時代を創る!

5月1日から令和の時代が始まります。そして、5日は令和最初の子どもの日です。

5月の晴れ渡った青空にこいのぼりが勢いよく泳ぐ光景に、未来に生きる子どもの可能性を感じます。この姿は時代が変わろうと不変で、私も父親が竹竿に真ごい、緋ごいをくくり付けて、「屋根より高く」揚げてくれていたことを懐かしく思い出します。

このように、子どもに未来を託し成長を願うことは、古今東西どの時代でも変わりませんが、第2次世界大戦後に子どもの権利を保障する考えが大きく前進して来ました。

昭和23年（1948年）に、前年に施行された日本国憲法を踏まえ、端午の節句である5月5日が「子どもの日」と制定され、26年5月5日には、憲法に基づき、「児童は人として尊ばれる」から始まる児童憲章が制定されました。

子どもの権利を擁護する思想は、国際社会ではそれ以前から発達しており、1924年、国際連盟において「児童の権利に関する宣言」が採択されています。それを踏まえて、国際連合は、1956年に連盟の宣言を拡張した同宣言を採択し、その30年後に「児童の権利に関する条約」を採択しました。この条約は、日本では1994年に発効され、「国は子どもの最善の利益のために行動しなければならない」と規定しており、児童の意見表明権まで明記しています。

このように子どもの権利に関する制度はかなり充実していますが、国内外でその権利が十分守られているとは言えません。外国で戦闘員にさせられている子どももいます。日本では、子どもを含む若者の死因トップが自殺と言う痛ましい現実があります。

子どもの権利が守られ、子どもが幸せであることが平和の象徴ではないでしょうか。令和の時代が、子どもにとって幸せな時代になることを念願するとともに、大人が責任を持ってそのような時代を築いて行こうではありませんか。



前列左から前田さん、稲田さん、市長、梶川さん、谷本さん

### 真庭市初 兼任型の集落支援員を委嘱 市民の活躍を支援

4月2日、市役所本庁舎で兼任型の集落支援員の委嘱式が行われました。この支援員は、おおむね小学校区単位での地域づくりを推進するため、市民自ら地域課題の解決に向け取り組もうとする明確な意思を示した地域に配置されます。今回委嘱されたのは、美甘コミュニティ委員会の前田昭子さん、二川ふれあい地域づくり委員会の稲田恵子さん、中和地域自主組織の梶川欄さん、上水田英賀の会の谷本吉照さんの4人です。



作品について来場者と会話をしている岩垣正道さん

### 真庭を彫る 岩垣正道版画展 市内の風景や建築物を題材に

4月4日から9日まで、旧遷喬尋常小学校を会場に「真庭を彫る」と題して岩垣正道版画展 in 旧遷喬尋常小学校が開催されました。岩垣さんは、目木にある曹洞宗毎来寺の住職。版画を始めたのは約40年前で、板に般若心経を彫ったのがきっかけ。旧遷喬尋常小学校を題材にした作品の寄贈を受けた市が、今回の個展を開催。来場者は、市内の風景や建物が色鮮やかに表現された作品25点に見入っていました。